

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

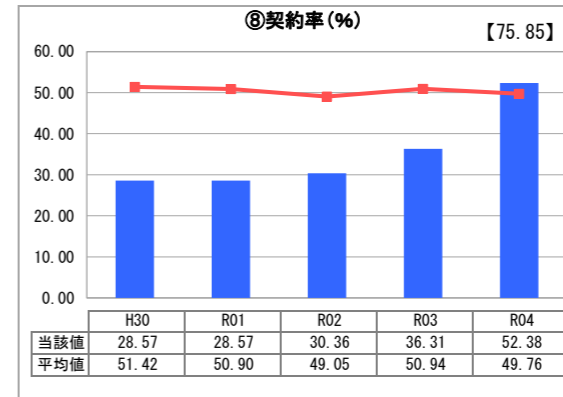
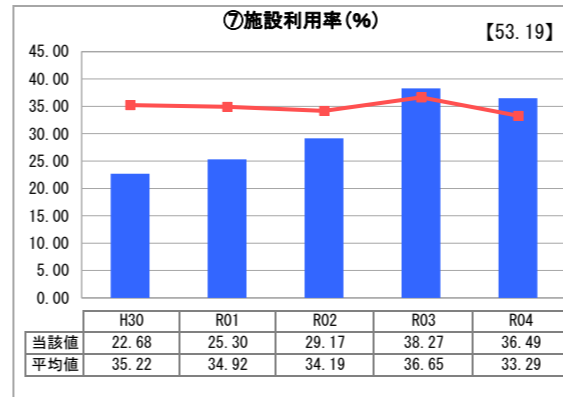
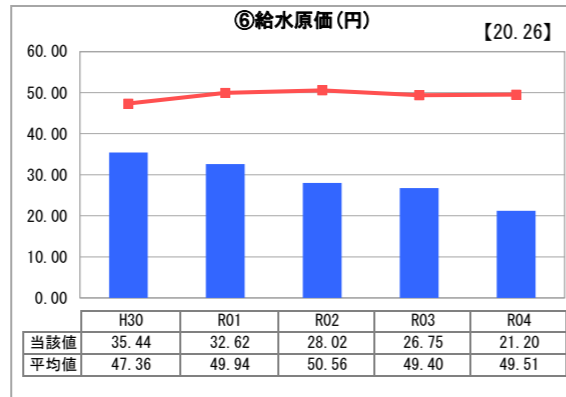
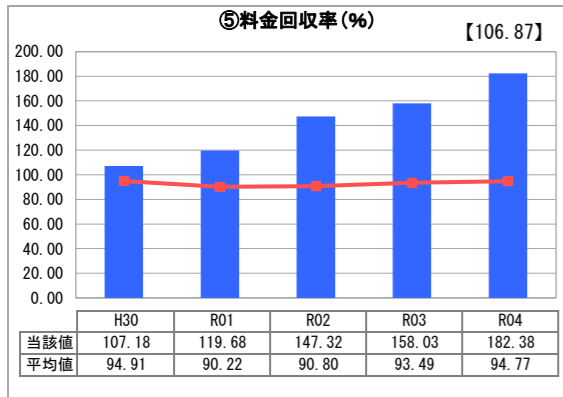
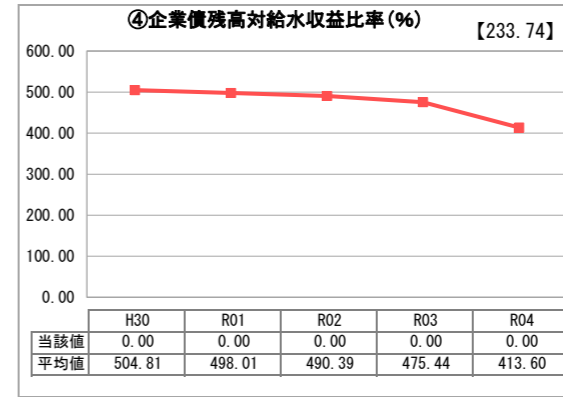
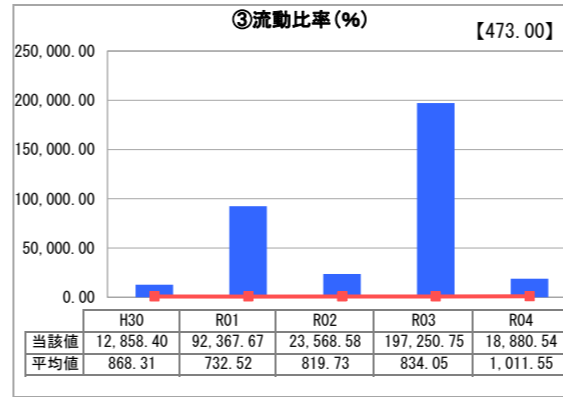
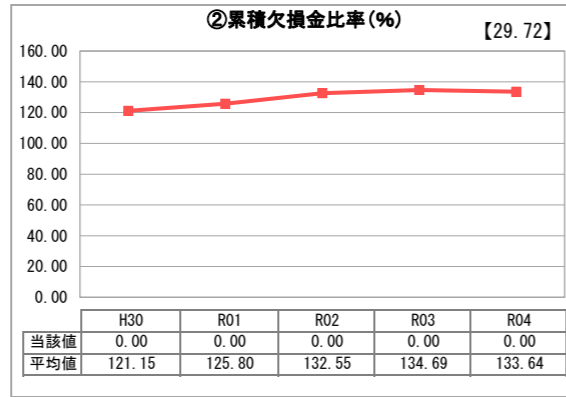
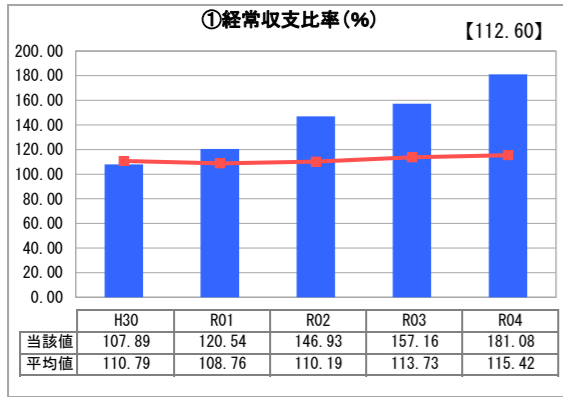
鹿児島県 鹿児島市
【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 1,680	類似団体区分 極小規模	施設数 1	1日平均配水量(m ³) 613
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 99.6	給水先事業所数 4	契約水量(m ³ /日) 880	管理者の情報 自治体職員	

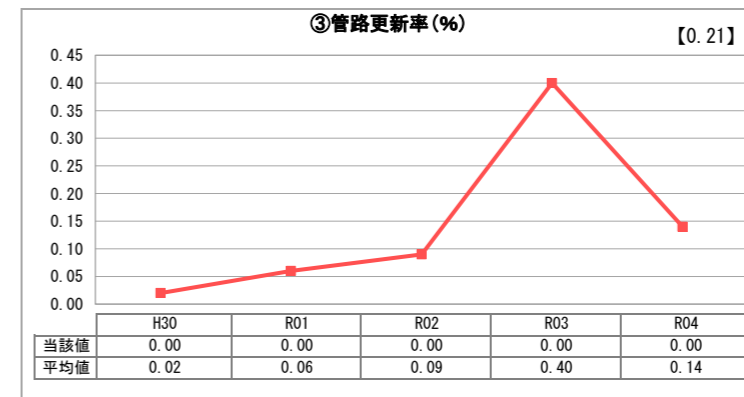
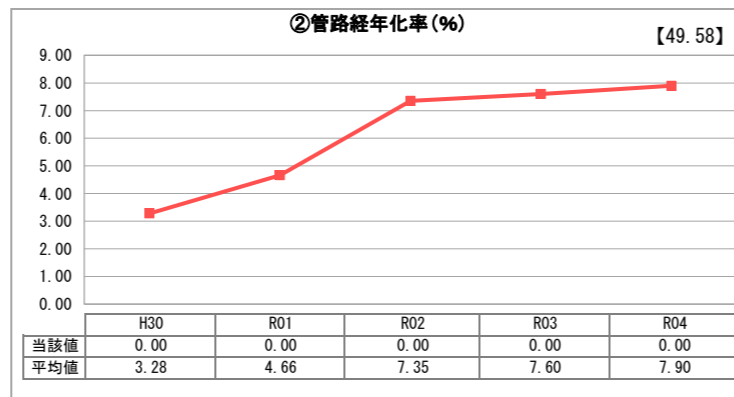
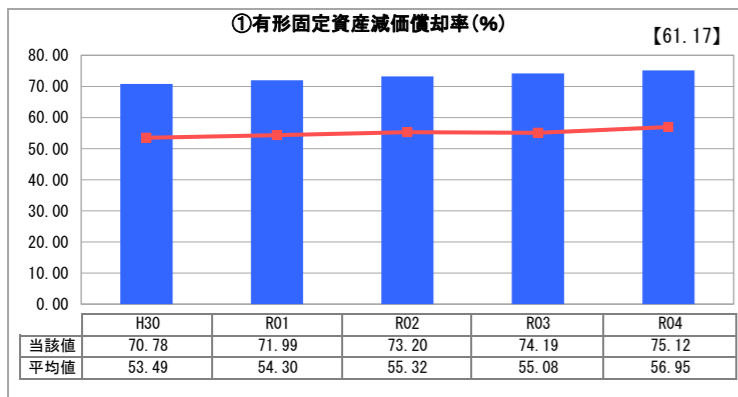
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率と⑤料金回収率は、各年度100%以上であり、費用を工業用水道料金等で賄っている。①⑤とも契約水量の増加に伴う給水収益の増加により上昇した。
 ② 累積欠損金比率は各年度0%で、これまでの累積欠損金が生じていないことを示している。
 ③ 流動比率も各年度100%以上で、短期的な債務を支払える現金等を保有できている状況である。3年度に上昇した理由は、流動負債（未払金）が少なかったことによるものである。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は各年度0%で、企業債の借入が生じていないことを示している。
 ⑥ 給水原価は、類似団体と比べ低い状況であり、今後も同原価の抑制に取り組んでいく。
 ⑦ 施設利用率は、3年度に給水量が増加したことにより、類似団体と同水準となった。
 ⑧ 契約率は、3年度に続き4年度も契約水量が増加したことにより上昇し、類似団体と同水準となった。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、年々増加傾向にあり、既存施設の経過年数が高まっている。
 ② 管路経年化率は各年度0%で、法定耐用年数を経過した管路延長がないことを示している。
 ③ 管路更新率は各年度0%で、当該年度に更新した管路がないことを示している。

全体総括

責任使用水量制により一定の収入は確保できるものの、今後、既存施設の維持管理や経年劣化に伴う改良・更新に要する費用の増加が見込まれるなかで、工業用水を安定供給するため、計画的かつ効率的な事業運営を行っていく必要がある。